



2026年3月1日発行
 (毎月1日・1回発行)
 1988年1月27日第3種郵便物認可
 定価50円
 発行/
 公益財団法人横浜YMCA
 広報センター
 〒231-8458
 横浜市中区常盤町1-7
 Tel 045-662-3721

横浜青年

YMCA NEWS



被爆体験の語り部が語る「平和」 市川被爆者の会事務局長 青木清子



横浜YMCAでは、平和についてともに考えようと、毎年2月11日に、「会員大会-ピースフォーラム-」を開催しています。今回は特別講演として、「戦後80年原爆被災者が語る平和とは」をテーマに、原爆被災者であり、語り部として活動している青木清子氏(千葉ワイズメンズクラブ)を招き、実体験から学び、今後の平和への取り組みについて、ともに考える機会とし、平和につながる活動に活かしていきたいと思ひます。

青木清子氏プロフィール
 4歳の時に広島にて被爆。広島大学教育学部在学時に学生YMCA所属。卒業後、広島県・千葉県にて教員。退職後、千葉YMCAで児童美術教室を開講し講師を務める。千葉YMCA会員、千葉ワイズメンズクラブメンバー。市川被爆者の会事務局長。被爆体験の語り部活動を続けている。



1945年8月6日朝、4歳になった私は、広島の郊外の家の庭で遊んでいました。早朝6時台、朝日にキラキラと輝く飛行機が上空を市街地に向かって飛んで行きました。偵察飛行だったのです。空襲警報発令で人びとは防空壕に逃げ込みましたが、爆撃はなかったため7時半空襲警報解除となり、人びとは仕事場に学校に、と普通の日常生活が始まりました。が、8時15分、突然ピカドン、一瞬のち、強烈な風が吹いてきて家や納屋の戸が外れて飛びました。私たちは何がなんだか分かりませんでした。親たちが駆け寄り私を抱きかかえました。幸い家族は誰もけががありませんでした。

市内では大変なことになっていました。頑丈でない建物は爆風によってすべて破壊され、数千度の熱線で丸焦げになり、人びとは圧死、焼死し、救助隊も手の施しようがありませんでした。即死を免れた人びとは、熱さのため水を求めて川にたどり着くと、そのまま溺れ、川面は死体で埋め尽くされました。辛うじて生き延びた人びとは、火に追われながら、郊外へ郊外へと逃れて行きました。我が家の前の道を、徒歩で逃れてくる無数の人びとを見ると、黒焦げの服は破れてぼろ布のよう、腕の皮膚が剥(む)けて垂れ下がるのを体の前に支えて、力無く歩いています。助けるすべもなく、母が急いで炊いて握ったおむすびを盆に載せて、私とその人たちに差し上げたのを覚

えています。3日後に親たちと市中に入り、爆心地に近い福屋百貨店で負傷した従妹を連れ帰り、背中じゅうに刺さったガラス片を看護師が抜くのを隣室からこわごわ見ていました。彼女はその後、病を抱えながらも老年まで生きました。しかし、市中で被爆した彼女の弟2人は消息不明のままです。

放射能を体に取り込んだ者は、見かけ健康でも、ある時その影響が現れ、命を失います。私の隣の学校で1学年下の佐々木禎子さんもその一例で、小学6年の時に白血病を発症し、生きる希望を折り鶴に託しましたが、中学に進む夢は叶わず、世を去りました。私たちは、亡くなった多くの子どもたちを記念する像を建てようと、学友皆で街頭募金活動を行いました。

私自身は幸い健康に特に問題なく、大学で美術教育を学び、教員として勤務し、84歳の今も高校生や障がいのある人びとに美術の楽しさを指導しています。生きながらえた者として被爆の実相を伝える使命を強く感じています。子どもたちには「たった2発の原爆で、20万人余りの人びとが亡くなりました。生き残った人も、後遺症で亡くなったり、放射能の不安に苦しめられたりしています」と語ります。

「今、世界中には、当時より格段に威力を増した1万2千発余の核兵器があります。核のボタンを押すようなことは絶対にあってははいけません。核兵器を禁止、廃絶しましょう。戦争を



▲原爆投下 爆風による被害(あけび書房「被爆者からの伝言」所載)

なくしましょう」と伝えていきます。

私は原爆被爆の生き残り、サバイバーです。語ることなく亡くなった多くの人びとの思いを伝えなければなりません。人類は、過去の過ちを繰り返してはいけません。広島平和記念公園の記念碑には、「安らかに眠ってください。過ちは繰り返させぬから。」と刻まれています。後段は、日本人の誓いであると同時に、世界人類への呼びかけでもあります。否応なく加害者となり被害者となる戦争は、絶対にしてはなりません。平和な、核兵器のない世界の実現を願ひ、これからも語り部として取り組み続けます。(特別講演より)

アフタースクールの子どもたちがひろしまピースキャンプ報告

2025年8月に行われた「ひろしまピースキャンプ」に参加した18人を代表し、YMCAとつか学童クラブ・東戸塚小学校放課後キッズクラブ(横浜YMCA運営受託)の子どもたち9人による報告が行われました。子どもたちからは平和記念公園の訪問や横浜YMCAの折り鶴を献納したことなどが伝えられました。また平和に向けて「戦争を絶対にしない」「譲り合う」「相手の気持ちを考える」「思いやりをもつ」ことが大切であると伝えました。

広島訪問し、平和の実現に向けて語るウクライナユース カテリーナさん

インターナショナルユースピースセミナーに2025年8月に参加した、横浜YMCAスタッフのカテリーナさんは、平和を実現するために私たちが目を背けてはいけないうちに話しました。広島を初めて訪問し、広島はウクライナとの共通した痛みと教訓があると気づき、戦争の悲劇を忘れないこと、悲劇を繰り返さぬよう人類にはあらゆる努力をする責任があると訴えました。詳細はQRコードをご覧ください。

ホドス

私の住むマンションの大改修が終わり、近づいています。この改修は多くの国の人びとの働きによって進められました。最初の足場を組む危険でこの三人の人たちがしました▼その他にも、いわゆる危険な仕事、汚いとまでは言わないけれど、決してらくではないところは外国からの人たちの仕事でした▼大改修が始まる前は、普段の生活を脅かす面倒なことが始まる、冷やかに考える人がいないようにと願っていました▼うれしいことにそれほど小さいとは思えない我がマンションの住民からそんな否定的な言葉を聞きませんでした。むしろ期間中の仕事を請け負った会社からの配慮の言葉「カーテンをするように」とか「鍵をかけるように」と「希望者には鍵をあげます」と鍵を用意した仕事を請け負った会社の配慮がうとうとしかつたです▼私は家族連れでアメリカやカナダの教会で働きましたが、もっと若い時は妻を日本に残してフィリピンの神学校で学んだ経験もあります▼どの国でも人びとの親しさや優しさに励まされましたが、一人で過ごしたフィリピンでの寂しさは心を病む一歩手前でした。その国から来た三人がもう何年も家族を残して日本で働くこと。家族思いのフィリピンの人たちがクリスマスを家族と迎えられないことに、私は心穏やかではありませんでした▼クリスマススイブの夜、仕事を終えた三人に、チョコレート添えて特別甘くしたコーヒを飲んでもらいました。(準)

YMCA NETWORK NEWS

原爆被災者、ピースキャンプ、戦争体験者が語る 平和、ともに考える 会員大会-ピースフォーラム-



横浜YMCAでは、2月11日に、湘南とつかYMCAの会場とオンラインにて「会員大会-ピースフォーラム-」を開催した。このフォーラムは会員事業委員会(古賀健一郎委員長)が中心となり企画・準備・運営が行われた。会場には維持会員、プログラム会員と保護者・家族、会員の知人、YMCAに関心のある人など166人(会場106人・アクセス60)が参加し、特別講演と子どもたちによるひろしまピースキャンプの報告、

ウクライナユーススタッフによる国際ユースピースセミナーに参加した報告と平和のメッセージが行われた。

千葉裕子会員事業委員により開会礼拝が行われた後、工藤誠一理事長が「会員の皆さまにとって互いに励まし合い、学びと交わりのときになりますように」とあいさつを述べた。

続く特別講演は、青木清子氏(市川被爆者の会事務局長・千葉ワイズメンズクラブ)が「戦後80年原爆被災者が語る平和とは」をテーマに自らの体験とこれからの語り部としての活動、平和について語った。

次に、ひろしまピースキャンプに参加した子どもたち(YMCAとつか学童クラブ・東戸塚小学校放課後キッズクラブ)による報告が行われ、平和記念資料館の見学や横浜YMCAの

多くの人が協力して作成した千羽鶴を献納した報告があったほか、平和につながる自分たちにできることとして「ちがいをみとめあう」「お互いに思いやりをもち」「いじめをしない」「なかよくする」ことと語った。続いて、横浜YMCAで働くウクライナユーススタッフのカテリーナさんが国際ユースピースセミナーに参加して感じたことや平和への想い(詳細は1面下QRコードをご参照ください)を語った。そのほか会員事業委員による維持会員の案内が行われ、最後に佐竹博総主事が会員事業委員の方々に感謝の言葉を述べ、「本日お話をいただいた体験のメッセージを自分ごととして捉え、平和に向けて取り組みましょう」と述べた。



▲平和についてともに考え、取り組むことを誓った参加者の皆さん



▲(左)被爆の体験談、戦争の悲惨さ、平和につながる取り組みを語る青木氏(映し出された資料は兵庫県被爆二世の会「ふるいしさんのほなし」所載)
▲(右)日本語で力強く「平和」への思いを語るカテリーナさん

3.11 東日本大震災から15年 震災・原発事故の経験と教訓から学ぶ

2021年3月11日に発生した東日本大震災から15年となるのを前に、YMCA東とつか学童クラブでは、2月12日にYMCA東とつかセンターにて2人の講師を迎え、防災について考える時を持った。

福島県広野町出身で4歳の時に原発事故に遭った大学生の中島空音(あお)さんは、自身の経験と親戚宅に転々と避難したことや放射線に関する授業を受けたことなどを語り「震災とともに過ごしてきたことは、今の小学生がコロナとともに過ごす姿と重なる」と話した。福島県双葉町の東日本大震災・原子力災害伝承館のスタッフとして施設の立ち上げに携わり、現在は横浜で活動している渡邊薫さん(一般社団法人明日の架け橋代表)は、子どもたちに「当たり前だと考えていることが突然、無くなることはだれに

でもある」と話し、まず自分たちが防災について意識を高めていきたいと思います」と語った。



▲東日本大震災・原発事故の話聞く学童クラブの子どもたち

2月17日から19日には、東日本地区YMCAスタッフ研修会(同総主事会議主催)が行われ、東日本にあるYMCAから総主事とスタッフ38人(横浜YMCA8人)が参加し、福島県双葉町・富岡町・浪江町を訪問した。研修では、東日本大震災や原子力災害に関する学びと伝承館の見学、語り

部の木村紀夫さん(大熊未来塾代表理事)から震災・原発事故の経験や教訓を学び、いのちの大切さと社会のあり方、未来について考える機会となった。この学びは、各YMCAや地域で活かしていく。



▲全員が無事避難することができた震災遺構浪江町立戸戸小学校を訪れ当時の状況を案内パネルなどを通し学んだ

維持会員 皆さまのお支えに感謝

上田将幸、ジャンチャムセム、塚本文武、戸村毅、中田泰、長谷川恵美、星野太郎、山内ちよこ、山本穂菜美 他19名。(敬称略。2月5日までに入金いただいた新規登録の方です。お名前の掲載については、ご承諾をいただいた方を掲載しています)。

横浜 優秀賞を受賞 日本語スピーチコンテスト

「第37回外国人留学生による日本語スピーチコンテスト」(主催 神奈川県修学校各種学校協会横浜支部)が1月27日に関内ホール(横浜市中区)にて開催された。コンテストには、横浜市内の専門学校を中心に13校から11か国・地域の21人が出場し、日ごろの学習の成果として日本での生活を通して感じたことや将来の夢などを発表した。

横浜YMCA学院専門学校日本語学科の金東勲(キム ドンフン)さん(韓国)は、「スクリーンの向こう側で出会った日本」のテーマでスピーチし、優秀賞のうち神奈川県新聞社社長賞を受賞した。



横浜 楽しく縄跳びにチャレンジ 体力向上キャンペーン

横浜YMCAでは、子どもたちの豊かな成長を支える機会として、子どもたちが体を動かすことに関心を持ち、楽しく、継続して運動に取り組む習慣を身に付け、体力の向上につなげようと、12月から2月まで、県内6か所の健康教育事業を中心に「体力向上キャンペーン」を開催した。器械体操やトランポリン・チアダンス・新体操のクラスでは、ウォーミングアップとして、2分間の前跳びを行い、跳んだ数を縄跳びチャレンジカードに記入した。子どもたちは楽しく取り組み、リズム感や持久力、体幹の安定を育んだ。



♪子育てランド♪ 五感育む春の遊び

春のやわらかな日差しとともに、乳幼児にとって心と体が大きく動き出す季節がやってきました。春の遊びは、自然に触れながら五感を育てる大切な機会です。散歩で見つけた花や虫に目を向けること、風を感じながら走ることを、地面に触れてしゃがむこと、その一つひとつが、子どもたちの「やってみたい」という気持ちを引き出します。保育園の子どもたちは、園庭で蟻をじっくり見つめ観察したり、近隣の公園まで散歩に出掛け友だちと一緒に体をたくさん動かして遊

んでいます。乳幼児期の遊びは、教え込むものではなく、感じて、試して、楽しむ中で生まれていきます。これからも暖かい日差しを感じながら夢中で戸外の散歩を楽しみ、子どもたちの心がのびのびと育つことを願っています。ぜひ、皆さんも戸外に出掛け、空を見上げたり、植物に目を向けて春の訪れを感じ、心も体もリフレッシュしてみませんか。(幼保連携型認定こども園 YMCAオベリン保育園 主任 賀澤順子)

YMCA NETWORK NEWS

子どもたちに体験の機会が公平にあるように 子ども支援基金チャリティーコンサート開催



横浜YMCAでは、子どもたちが自分の人生を切り拓いていくためにさまざまな機会に参加できる機会が公平にあるようにと「子ども支援(BAPY=Be A Partner of the Youth)基金」により、横浜YMCAのキャンプや水泳、体操などのさまざまな活動に、経済的な理由から参加することのできない子どもたち(青少年)に、参加費の一部または全額を基金によって支えている。そこで、基金についての理解と支援者の輪を広げようと、2月1日に、戸塚区民文化センターさ

くらプラザホールにて「第2回子どもたちの未来のためのコンサート」(主催 湘南とつかYMCA運営委員会/後援 戸塚区・戸塚区民文化センターさくらプラザ)を開催した。

コンサートは、青山瑠美子氏・飯田彰子氏(ピアノ)、井上八世以氏(ヴァイオリン・湘南とつかYMCA運営委員)、高井洋子氏(クラリネット)、中野亜維里氏(ソプラノ)による演奏とトークを交え行われ、参加した151人になごやかな時が流れた。参加者からは、「演奏者の皆さんのト



▲子ども支援基金の理解を広め、会場のアンコールに応え演奏後にポーズを決める演奏者の皆さん

クも楽しかった。多くの方に関心をもっていただき、子どもたちの体験の機会が豊かになるよう支援の輪を広げたいですね」という声が寄せられた。この日の運営費を除く196,612円が子ども支援基金に用いられる。利用申請期日は夏季プログラムとして6月5日(金)まで。



YMCAの使命に賛同する 賛助会企業と地域に貢献

横浜YMCA賛助会は、横浜YMCAの青少年育成や地域の人びととともに平和な社会を創ることを目指す目的と願いに賛同し、その活動を援助、支援する法人により構成する会員組織となっている。

2025年度は、インターナショナル・チャリティーラン支援のための異業種交流会を開催し、チャリティーオークションにて支援金を集めた。賛助会各企業のそれぞれの特色を生かしYMCAの学童クラブの子どもたちを対象とした「おかねの教室」、YMCAの留学生を対象とした「就職のための模擬面接」を開催した。また、児童養護施設「聖母愛児園」の子どもたちとのふれあい

イベント(バーベキューとビンゴゲーム)も継続し、今後も企業の社会的責任(CSR)の実践につながる活動を続けていく。

【2025年度賛助会入会会社】

厚木ティービルサービス(有)、(株)安藤スポーツ、アンドウ電気照明(株)、(株)伊藤園、上野トランステック(株)、(株)エイコープリント、小倉会計事務所、鹿島建設(株)横浜支店、(株)神奈川新聞社、川本工業(株)、(株)共栄社、(株)崎陽軒、協同電気(株)、(株)グリーンハウス、(株)サカクラ、(株)サス・スポーツプロダクト、湘南ひかりのくに(株)、SOMPOひまわり生命(株)横浜支社、大成建設(株)、(株)ダイイチ、ダイドードリンコ(株)、タカナシ乳業(株)、タカノ(株)、(株)テレビ神奈川、(福)東京コロニー

東京都大田福祉工場、戸田建設(株)横浜支店、(株)日栄ビルサービス、日興テクノス(株)、(株)日新、三菱HGビジネスリース(株)、藤木企業(株)、富士フィルムビジネスイノベーションジャパン(株)神奈川支社、富士倉庫(株)、(株)ホテル、ニューグランド、(株)プレジャー、(株)ボンパドウル、丸全昭和運輸(株)、三丸興業(株)、明治安田生命保険相互会社、(株)有隣堂、(株)ヨコソー、横浜ウェルケア(株)、横浜エレベータ(株)、(株)横浜銀行、横浜商工会議所、(株)横浜スタジアム、(特非)よこはま地域福祉研究センター、ヨシダ電子(株)、(株)リベラル、(有)ワイコーレーション(順不同・敬称略 1月31日まで)。

2025年度のサポートに感謝いたします。

ひとかき

15年

総主事
佐竹 博

23歳で横浜YMCAに入職した私は15年後(2005年)には、日本YMCA同盟に出向していました。同盟へ行くまでの15年間、プールを中心とした健康教育事業から、複数部門を経験した後、山手台センターの館長などYMCAの複数事業を経験し、職員としての働きの広がりを体感していました。そして15年かけて経験したたくさんの働き以上に同盟でしか経験できない多くの仕事に出会い学びました。その年の私は前年に発生した中越地震への全国YMCAによる復興支援活動の担当をしていました。あれから20年以上経ち、あとに発生した災害など

により中越地震は人びとの記憶からは薄れてきています。私自身当時のボランティアセンター長とはショートメールなどのやり取りがあるものの、小千谷をしばらく訪問できていません。

その2005年から15年後の2020年に私は横浜YMCA総主事を拝命し、現在に至っています。同盟から帰任後、本部事務局、大阪YMCAへの出向などを経験しました。「あつ」という間」とは言い難いほど多くの経験をした長く代えがたい期間だったと思います。総主事になってすぐ、コロナ禍となり2020年から2021年の間に神奈川県では3回

の緊急事態宣言が出されるなど、その後に影響するほど人びとの生活様式や社会の在り方が大きく変わりました。

私自身の横浜YMCAでの15年ごとの節目を振り返ってみました。多くの出会いと学びにより生かされ成長できていることに感謝しています。一般的に言っても15年という歳月は長く、たくさんの経験を積み、人間的に成長していきます。同時に記憶の上書きがされ、忘れていくこと、忘れられていくことがあるのも事実です。

東日本大震災から15年の3月を迎えています。

Topics 140years of HISTORY 戸塚センターから湘南とつかYMCAへの歩み vol.24

横浜YMCA最初の地域センターとして、1972年に戸塚区のスーパーマーケット(戸塚駅西口)の一角に戸塚センターが開設されました。人口が増え続けていた当時の戸塚区では、開設して間もなく200人ほどの子どもの登録がありました。1978年には戸塚区役所前のビルへ移転し、体育遊びや小学生英語、中学生の学習指導などのプログラムを実施しました。さらに1987年には、中・高校生の進学指導へのニーズの高まりを受け、より広い施設が必要であること、戸塚駅東口は開発が進み人口増加が始まっていること、複数路線の利用ができ便利であることなどから、戸塚駅東口のビル2階へ移転し、名称を「YMCA戸塚ステーション」と改めました。多目的ホールや研修室を備え、衛星放送の受信、パソコンコーナーの設置によるCAI(個人個別学習)ソフトの導入など注目を集める施設となりました。新たに始めた成人の英会話や従来のサッカー、野外活動クラブ、アフタースクール、小学生英語クラブなどが展開されました。その後、横浜YMCA創立110周年を迎えた1994年に、現在の湘南とつかYMCAに移転し、地域に根差した活動を展開しています。



▲建設中の湘南とつかYMCA(同紙1994年1月号掲載)

FLASH NEWS

2月21日に、横浜中央YMCAにて「東北アジアの平和と「ともだち展」の歩み-日朝交流の可能性」をテーマに、山本俊正氏(南北北コアと日本のともだち展代表)を迎え講演会が行われた。講演会には50人の参加があり、絵画を通してまだ見ぬ友だちと交流することによって、東北アジアの平和を築こうと続けてきた「ともだち展」の意義について理解を深めた。同時開催した絵画展とこともワークショップ(主催 南北北コアとかながわのともだち展実行委員会)を同時開催した。

神奈川県内の朝鮮学校の実情を知ってもらうことを目的に2017年から行われている「かながわの朝鮮学校交流ツアー」(神奈川の朝鮮学校交流ツアー実行委員会主催・共同代表佐竹博横浜YMCA総主事)は、2月14日に約100人(参加者・教職員含む)が朝鮮中高級学校を訪問した。「出会う(マンナミヨ)・学ぶ(ベウミヨ)・共に(トプロ)」をテーマに、民族教育を守り続けてきた朝鮮学校の教職員や生徒たちと交流した。講演会は、田中宏氏(一橋大学名誉教授)を招き、「日本社会はなぜ朝鮮学校を守らなければならないのか」をテーマに学んだ。

ポジティブネットをひろげよう

今月のよくなる歩

見つけよう、
しょうらいの道を拓こう
(Responsibility 責任感)



TOF (Time of Fast) ワイズメンズクラブ東日本区かながわ

ワイズメンズクラブには、「断食のとき」を意味するTOF (Time of Fast)という活動があります。会員が日常の食事を控えたり、質素にしたりすることで生まれた節約分を献金し、世界各地の支援活動につなげる国際奉仕プログラムです。集められた献金は、災害救援、教育、保健、生活改善など、幅広い分野で活用されています。

東日本区においてはこの資金を用いて、昨年度より3年計画で「不登校問題への取り組み」を実施しています。これは、増加する不登校という社会問題に対し、YMCAと連携し、調査や学習会、関係者のネットワークづくりを通じて、地域に根ざした支援体制を構築することを目的としています。(ワイズメンズクラブ東日本区かながわ部書記 板崎淑子)

横浜中央YMCA Tel 045-662-3721
 横浜北YMCA Tel 045-433-4321
 藤沢YMCA Tel 0466-26-1151
 横須賀YMCA Tel 046-854-5126
 川崎YMCA Tel 044-932-2031
 厚木YMCA Tel 046-244-4181
 鎌倉YMCA Tel 0467-24-7859
 YMCA山手台センター Tel 045-813-1022
 湘南とつかYMCA Tel 045-864-4768
 金沢八景YMCA Tel 045-782-3003
 YMCA東とつかセンター Tel 045-392-3747
 大和YMCAライフサポートセンター Tel 046-264-3192

横浜YMCAワグサポートセンターアンジュ Tel 045-867-0090
 横浜YMCAワグサポートセンターレザン Tel 045-860-5252
 YMCAあつぎ保育園ホサナ Tel 046-222-8619
 YMCA山手台保育園アルク Tel 045-813-1022
 YMCAとつか保育園 Tel 045-870-3663

YMCAマナ保育園 Tel 045-790-3588
 YMCAとつか乳児保育園 Tel 045-870-3235
 YMCAつるみ保育園 Tel 045-500-5030
 YMCAかわさき保育園 Tel 044-520-1825
 YMCAいずみ保育園 Tel 045-800-3010

YMCA東とつか保育園 Tel 045-820-5588
 YMCA東かながわ保育園 Tel 045-440-3763
 YMCAたかつ保育園 Tel 044-281-7833
 金沢八景YMCA保育園 Tel 045-353-5130
 YMCAオベリン保育園 Tel 042-707-9974
 大和YMCA保育園 Tel 046-214-3192
 富士山YMCAグローバルエコヴィレッジ Tel 0544-54-1151
 三浦YMCAグローバルエコヴィレッジ Tel 046-888-2100
 鶴見中央YMCA Tel 045-508-7800
 YMCAライフサポートセンター鶴見 Tel 045-506-0131
 本部事務局 Tel 045-662-3721

INFORMATION

横浜YMCA



●感染症等の拡大防止のため、イベントを延期・中止させていただく場合があります。(参加費は税込み)

レクチャー

■発達・教育支援プログラム30周年記念講演

日程 3月8日(日)午前10時~12時
 会場 湘南とつかYMCA 1階ホール
 内容 子どもが穏やかに過ごせるために親がするべきこと
 講師 森昭憲氏(富山県リハビリテーション病院・子ども支援センター小児科部長、精神科部長、心理療法部長、元YMCA野外活動ボランティアリーダー)
 定員 100人
 参加費 無料
 申込み QRコードからお申し込みください。
 問合せ 湘南とつかYMCA Tel 045-864-4768

参加費 1,000円(※小学生以下500円)
 申込み 大和YMCA ライフサポートセンターまたは、当日受付にて。
 ※障がいのある方、介助の方へは無料招待席を用意しております。必要の方はご連絡ください。
 主催 大和YMCA「輪和 Wa コンサート」実行委員会
 後援 大和市・大和市教育委員会・大和市社会福祉協議会
 問合せ 大和YMCA「輪和 Wa コンサート」実行委員会 Tel 046-264-3192

■復興支援イベント～みんなであつぎ・ともに歩もう～

日程 ①3月20日(金・休)午後4時~5時15分
 ②3月21日(土)午前10時~12時
 会場 ①横浜市踊場地区センター
 ②湘南とつかYMCA
 内容 ①まつり宝山によるワークショップと仙台すずめ踊り
 ②輪島市町野町にある、もとやスーパー社長本谷一知氏による能登の現状についての話、きりこ太鼓、仙台すずめ踊り

参加費 無料(予約不要)
 問合せ ①Tel 045-866-0100
 ②Tel 045-820-5588

■富士山YMCA 第86回ファミリーキャンプ

日時 4月18日(土)~19日(日)

会場 富士山YMCA(現地で集合・解散)
 時間 集合 4月18日(土)午後12時30分
 解散 4月19日(日)午後1時30分
 対象 4歳以上の子どもを含むご家族
 参加費 宿泊棟A棟(2人ベッド+2人ロフト、トイレ洗面台付)大人16,500円・子ども13,200円(税込み/1人)
 宿泊棟B棟(6人ベッド、トイレ共用)大人15,400円・子ども12,100円(税込み/1人)
 申込み ホームページからお申し込みください。2月21日(土)から受け付けます。
 問合せ Tel 0544-54-1151

キリスト教理解

■とつか聖書を学ぶ会

日時 3月12日(木)午前10時30分~11時30分
 会場 湘南とつかYMCA 4階教室
 テーマ 聖書を楽しむ学ぼう
 講師 堀野浩嗣氏(横浜戸塚バプテスト教会牧師)
 参加費 無料
 問合せ 湘南とつかYMCA Tel 045-864-4768 ymsports@yokohamaymca.org

子育て支援

■横浜子育てサポートシステム入会説明会

日時 ①3月6日(金)午後1時30分~2時30分
 ②3月18日(水)午前10時~11時

場所 中区地域子育て支援拠点のんびりんこ
 対象 横浜子育てサポートシステムに入会を考えている方
 申込み QRコードからお申し込みください。
 問合せ Tel 045-663-0676

プレママ・プレパパDay

日時 3月24日(火)午前10時~11時
 会場 金沢区地域子育て支援拠点とことこ
 対象 第1子妊娠中の方
 内容 先輩ママ・パパとおしゃべりタイム
 問合せ 金沢区地域子育て支援拠点とことこ Tel 045-780-3205

学校説明会

■YMCA健康福祉専門学校

日程 3月7日(土)・14日(土)・28日(土) 午前10時~/午後2時~
 内容 入試説明・学校見学
 申込み QRコードからお申し込みください。
 問合せ Tel 046-223-1441
 ○入学試験は3月7日(土)・14日(土)実施します。

■横浜YMCA学院専門学校 国際情報ビジネス科

【入学試験】
 日時 3月7日(土)・14日(土)午後1時~
 ※定員に達し次第、終了します。
 問合せ Tel 045-661-0080

和菓子作りと茶道体験で交流 みどりクラブ

2月に行われたみどりクラブでは、日本の文化をより深く知ろうと、和菓子作りと茶道体験を行いました。和菓子を作るための材料の使い方や、和菓子に込められた文化的な意味についても学び、心をこめて皆で作りました。続いて抹茶の点て方も体験し、できあがった和菓子を抹茶とともに味わいました。また、みどりクラブの3年に感謝して、皆で用意した記念のケーキがふるまわれ、これまでに関わってくれたすべての方たちに感謝の気持ちを伝えました。



国際デーに合わせ啓発ポスター SDGsの理解促進図る

横浜YMCAでは、職員によるSDGs委員会が中心となり、SDGsの周知活動と推進を行っています。2025年度は国連が定めたさまざまな国際デーに合わせた啓発のポスターを作成し、SDGsの理解促進に重点を置き、次世代へより良い地球環境をつないでいけるよう取り組みを続けました。今後も世界の課題解決に向けて、横浜YMCAに関わる一人ひとりがSDGsに取り組めるよう意識向上の促進と行動につなげていきます。



140years of HISTORY

横浜YMCAは2024年10月に140周年を迎えました。140年のあゆみを写真で紹介します。



My Y Story

194

専門学校とリーダーの学び生かしたスポーツの楽しさを伝えたい


横浜YMCA スポーツ専門学校
 スポーツトレーナー科スポーツトレーナーコース
 YMCA山手台センター ユースリーダー
中野 依吹

私は、身体を動かすことが好きでスポーツについて学びたい、人と関わる仕事をしたいと思い、横浜YMCAスポーツ専門学校に入学しました。1年生の6月からYMCA山手台センターで水泳とキャンプのリーダーとして活動し、一人ひとりの良いところを見つける力や、多くの活動を通して、人と関わる楽しさについて学ぶことができました。また、子どもたちの「できた」につながる考え方と準備の仕方や、誰かを楽しませるだけではなく、まずは自分自身が楽しむことが大事だということ、さまざまな活動に対して積極的に活動を起こし、YMCAの活動を盛り上げていくことなど、目標とするリーダーから多くのことを学び、誰かのために行動することの楽しさに気づくことができました。

キャンプでは、子どもたちと一緒に生活することで、子どもたちの良い所を見つけることもできました。他のYMCAからの子どもたちも参加しているので、新たなつながりを持つための工夫や他のYMCAのリーダーたちからも子どもたちへのアプローチの仕方や活動の準備など多様な学びもできました。リーダー活動を

通して、多くの人と関わる中で、「人と話すことが楽しい」と思えるようになりました。専門学校の3年間は、クラスで国際・地域協力募金のためのYMCAい~とつか祭(YMCA祭)に、スーブの提供やスポーツトレーナー科の特長を生かした施術、ストラックアウトなどのゲームを学年ごとに工夫して取り組みました。横浜YMCAインターナショナル・チャリティーランには、運営のボランティアとして3年間継続し、参加者の方の思いや企画の意味を考えながら参加しました。また一般の部に、専門学校から1チーム参加し、3年間アンカーを担当し、3回とも優勝できました。参加者や募金を必要としている人が勇気や希望を持てるきっかけになりたいと思い、走りました。

4月からは横浜YMCAのスタッフとして、リーダーの時に学んだことを生かしながら、スタッフとしての業務を覚えて、少しずつ皆に頼られるスタッフになりたいと思います。プログラムの指導だけでなく、平和につながる活動や募金活動などについても大切に取り組んでいきたいと思っています。



▲ユースリーダーとして子どもたちに水泳指導を行い自らの学びも深めた(2025年9月 於 YMCA山手台センター)